

【特集】

福岡銀行

競争激化もトップの座に揺るぎなし

西日本シティ銀行の誕生、他県地銀の進出、さらにはメガバンクの攻勢で競争が激化する福岡にあって、いち早く財務健全化を達成し矢継ぎ早の施策展開で収益の増強に邁進する福岡銀行の経営戦略と業務推進の実相を明らかにする。

▶▶▶ 寺本 清 頭取に聞く ◀◀◀

経営のスピードをあげ、ライバルに差をつける

構築した営業インフラを全面展開へ

○五年度を最終年度とする中期経営計画の達成はほぼ確実になつた。今年はいくまで準備したインフラをフル稼働させて収益力をつける。福岡での競争は激化しているが、当行の優位性は揺るがない。九州全体が広域経済圏化していくなかで、その中心地である福岡で圧倒的なシェアを維持することは、当行の活動を広域化していくためにも重要だ。「揺るぎなく発展する先進銀行」を確信して、後継者にバトンタッチする。

スピードをあげ
一気に離す

——年頭とんなメッセージを

○三年春からスタートした現在の中計「新世紀プランⅡ」は、前計画で始めた顧客セグメント別営業戦略をさらに先鋭化させることに主眼をおいたが、前半の一年半ですべての作戦に必要なインフラの構築をほぼ終えた。なかには計画より相当早く完成したものもある。今年はいずれも総仕上げの年であり、インフラをフルに稼働させ、収益力をつける。幸い計画前半でのインフラ完成により、目標であるROE八%、当期利益三〇〇億円に

はいまの段階で手が届く状況にある。行員には達成感をエンジョイしてもらいたい。

——ライバルと目される西日本

シティ銀行も一月にシステム統合を終え、今年から実質的なスタートを切るが

西日本銀行と福岡シティ銀行の経営統合が発表されたのは一年半前だが、われわれは中計のなかに競争の激化、地元のライバルだけではなく他県地銀、あるいはメガバンクが資本増強で自己資本にゆとりが出てきていることまで織り込んでいる。とくにいまさら西日本シティ銀行を意識した戦略の展開は考えていない。